対人関係能力を学び、業務に活用

府国保診療施設協議会看護師部会総会・研修会

国保診療施設協議会看護師部会総会・研修会は、３月６日（土)、府国保連合会において府国保診療施設より８２名の看護師が集まり開催された。

開会にあたり、公立南丹病院の大嶋部会長は、看護部の評価に対する加算が多く見られることから、看護の質を高めるため、看護部の研鑽が必要となっており、今回の研修内容を各施設に持ち帰り、役立ててもらいたいと挨拶した。

総会では、国保新大江病院の迫田総看護師長より平成２１年度看護師部会及び協議会全体事業報告がなされた。

研究発表では、公立山城病院の徳重仁美看護師は「背上げと体圧の関係～膝上げ機構と三角枕の比較検討～」、公立南丹病院の山内真紀看護師は「竹炭の消臭パワーを利用した快適な環境の提供を試みて～病室における生活臭の緩和を目指して～」、国保京丹波町病院谷掛郁代准看護師は「インシデントレポートによる業務改善」と題して発表した。国保新大江病院の梶原美紀准看護師は「口腔ケアに重曹緑茶を取り入れて」、京丹後市立弥栄病院の松本恵助産師は「腹式帝王切開術で出生した新生児の体温管理～手術室から帰室する間の保温方法を改良して～」、京丹後市立久美浜病院の西垣佳代准看護師は「シャワーベッドの効果的な入浴時間の検討」のテーマで発表した。

オフィス　ラ・ポールの真谷勝義代表は「看護に活かす人間理解と対人関係能力の育成」と題して講演を行い、良い対人関係を作る方法を段階的に説明した。